

リフィル処方時代を見据えた 薬局のあり方

株式会社あおい調剤グループ

堀内 保宏・勝亦 大介・坂野 彰則・渡邊 範久
澤出 和成・村越 数馬・加藤 謙

目的

- ・今現在、薬局は病院の近くに立地していることが多く、門前薬局といわれることも多い。今後リフィル処方箋等で薬がもらえるようになった時、患者はどのような薬局を選ぶのか疑問に思い、今回の調査を行った。
- また、患者の薬局に求める利便性や地域の健康相談所としての役割を薬局が果たしているのかということも同時に調査した。

手段

・H27年3月から2か月間、あおいグループ内20店舗にてアンケートを用いて調査を行った。

アンケート
内容

今後の薬局の立地、求められることは？

・薬局を選ぶ理由はなんですか？

病院に近い 家から近い スタッフの対応 待ち時間 雑誌・新聞 飲み物
 その他

・もしも、定期的に服用している薬が、病院に通院しなくてもお薬手帳の提示などで薬局でもらえるようになったら、どの薬局を選びますか。(3つまで回答可)

病院から近い 家から近い 商業モールの中 現在のかかりつけ薬局

最寄り駅、バス停から近い 職場・学校に近い 駐車場が広い その他

・薬局でクレジットカードでの支払いを希望しますか？

希望する 希望しない

・クレジットカードでの支払いができることが選ぶ理由になりますか？

思う 思わない どちらでもいい

・今飲んでる薬をお薬手帳ではなくスマートフォンやタブレットなどに取り込んで利用できる場合、利用したいですか？

思う 思わない どちらでもいい すでに使用している

・処方箋の要らない薬、市販薬をどこで購入したいですか？

かかりつけ薬局 ドラッグストア インターネット

・お薬のことや、健康、食生活などを薬局で相談したことはありますか？

ある なし

・あると答えた人はどのような理由で選びましたか？

病院から近い 家から近い 現在のかかりつけ薬局 スタッフの対応

その他(環境、雰囲気)

・今後、自分の健康を気軽に相談できる場所として薬局は選択肢に入りますか？

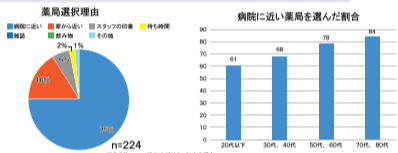
入る 入らない

アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。

性別 男女

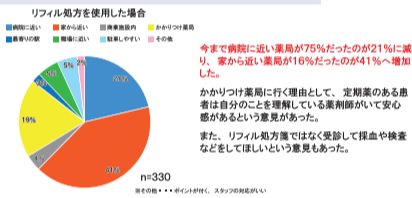
年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代 代理

現在、薬局を選ぶ理由はなにか？



現在、病院に近い薬局に来店されるのが全体の75%と一番割合が大きいです。年代別で見ると、年齢が上がるにつれて病院に近い薬局を選ぶ傾向がある。ご年配の方では移動が大きな負担になるということが考えられる。

リフィル処方箋を使用した場合

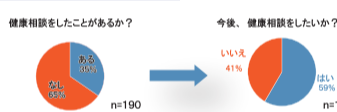


今まで病院に近い薬局が75%だったのが21%に減り、家から近い薬局が16%だったのが41%へ増加した。

かかりつけ薬局に行く理由として、定期薬のある患者は自分のことを理解している薬剤師がいて安心感があるという意見があった。

また、リフィル処方箋ではなく受診して採血や検査などをしてほしいという意見もあった。

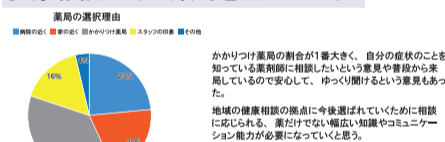
薬局への健康相談



薬局に来る人は、薬をもらうための理由が多く、健康相談のために来るという方は少なかった。薬局が健康相談のために来やすい場所と知らない患者も多かったが、相談できるなら健康相談したいという患者は多かった。

看板等を見て相談したいことを知ったという人もいたため、今後は健康相談できる場所であることをより多くの人に知ってもらうため、ポスターやチラシなどを人の目に触れる場所に設置し知ってもらう必要がある。来局時に居心地のいい雰囲気を作ることも必要だと思う。

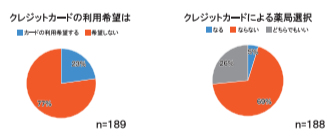
健康相談にその薬局を選んだ理由



かかりつけ薬局の割合が1番大きく、自分の症状のことを知っている薬剤師に相談したいという意見や普段から来局しているので安心して、ゆっくり聞けるという意見もあった。

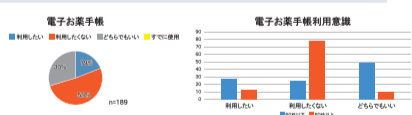
地域の健康相談の拠点に今後選ばれていくために相談に応じられる、着だけではない幅広い知識やコミュニケーション能力が必要になっていくと思う。

薬局利便性① クレジットカードの利用希望



クレジットカードの利用希望は23%と一定数いる。今回の結果では、クレジットカードを使えるかどうかで薬局選択にはそこまで影響はなく、サービスの1つとしてあればいいという結果が出た。

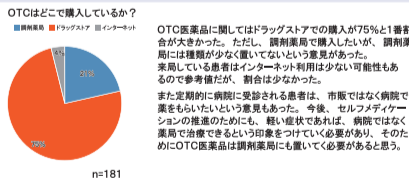
薬局利便性② 電子お薬手帳の利用



調査を行った地域では電子お薬手帳はまだ浸透してない利用者はいなかった。電子お薬手帳に対して操作が難しそう、利用するならば薬局で設定してほしいなどの意見があり、特に年配の方は使用に抵抗を持つ方が多かった。

また、電子お薬手帳に興味を持つ人がいたが、今後普及していくためには、利便性や機能性を理解していただく必要があると思う。

薬局利便性③ OTC医薬品の購入はどこで行っているか？



OTC医薬品に関してはドラッグストアでの購入が75%と1番割合が大きかった。ただし、調剤薬局で購入したいという、調剤薬局には種類が少なく置いてないという意見があった。薬局という患者はインターネット利用は少ない可能性があるため参考値だが、割合は少なかった。

また定期的に病院に受診される患者は、市販ではなく病院で薬をもらいたいという意見もあった。今後、セルフメディケーションの推進のためにも、若い世代であれば、病院ではなく薬局で治療できるという印象をつけていく必要がある。そのためOTC医薬品は調剤薬局にも置いていく必要があると思う。

まとめ

- ・リフィル処方箋が使用できると仮定した場合、門前病院の枚数が大幅に減少し、複数医療機関での処方箋の枚数が増えると考えられる。その際に、かかりつけ薬局として安心や信頼を提供できる事が今後も選ばれる薬局として生き残っていくと考えられる。
- ・また、薬局に健康相談する場として気軽に入店するという患者はまだ少なかった。しかし、利用していないが、話を聞いてもらえるなら今後、利用してみたいという患者も多かった。今後、セルフメディケーションの推進の際に薬局が健康拠点の中心になるためにもOTC薬品の充実、薬剤師の知識やコミュニケーション能力の向上は必須だと考えられる。
- ・電子お薬手帳自体がまだ患者に広まっておらず、薬局側もまだ確実に対応できるとはいえない。また、60歳以上の高齢者には電子お薬手帳の使用に強い抵抗があり、薬局側も電子お薬手帳と紙のお薬手帳両方に対応していく必要があると思う。今後の普及のためにも利用の簡便化等、患者側、薬局側、両方に負担にならないものであってほしいと思う。